

神楽まちづくり推進プログラム見直しに係る参考資料

資料4

No	地域で認識している諸課題 (地域の課題)	課題解決の取組・魅力づくり	掲載 年度	当時の経過等 (参考)
1	【優先】高齢者が気軽に集う 機会や場所の不足 (全域)	【優先】高齢者の居場所 (サロ ン) づくり (全域)	H29~	(現在実施中)
2	・高齢者 (独居者) の健康維 持と安否確認 (全域)	・大人ラジオ体操の実施 (全域)	H29~	「大人ラジオ体操」を降雪のない期間 (週数日) 定期的 to 実施する。早朝の時間帯に 大型薬局の駐車場や小中学校の体育館等を借り受け、ラジオ体操を行う。移動までの 歩行とラジオ体操で定期的に体を動かし、また多くの方々と顔を合わせ、コミュニ ケーションを図ることにより、相互に健康や安否などに関心を持つ。
3		・旭川医大との協力・連携 (全 域)	R2~	(現在実施中)
4	・高齢者・障害者の買物、通 院、除雪等の生活支援 (全 域)	・地域コミュニティーカーの運行 (神楽岡)	H29~	買物弱者支援対策：平成25年度に経済産業省「買い物弱者支援対策助成事業」に商 店会会員 (株式会社クライミング=そば茶屋季みのり) が事業申請して採択され、現 在軽自動車2台で、地域内で営業している。今後は、地域事業者の協力を得て、青果 物、日用雑貨等の販売を計画する。市民委員会及び事業者 (商店会等) が協力して、 地域住民の交通手段として、地域コミュニティーカーの運行を計画する。NPO法人設立 を検討する予定である。地域タクシー会社の定期券 (1箇月間乗り放題) の発行を検 討要請する。 【検討の視点】 現在では配達サービス等の事業者も増えている。まち協が今後も実施を検討する 取組として、残しておく必要があるか。
5		・市民委員会、地区社協等による 除雪支援組織づくり (神楽岡)	R元~	近年は、団塊の世代が現役を退き、「若年高齢者」が増加している。一方、少子高齢 化社会において、労働力不足が社会問題化し、特に福祉除雪サービス制度は、登録会 員に対し担い手が不足している。また、国道・市道等の花壇の管理が不行き届きで、 雑草が生い茂っていて、美観を損ねている所も多数見受けられる。軽作業であれば、 シニア世代のマンパワーで解決できることがたくさんあるが、参加のきっかけ (申込 み)、受け皿 (窓口) が不足している。また、町内会、老人クラブ等の既存体制への 参加も思わしくないのが現状である。 【課題解決の取組・魅力づくり】・シニア世代の活躍事業 (地域協働事業) 誰でも気軽に参加できて、楽しく、長続きする (仮称) 「いきいき★元気クラブ」を 設立する。活動内容は、空き地の有効活用による菜園づくり、街路道の花壇整備、冬 期間の除雪困難世帯への除雪支援等を提案します。
6		・シニア世代活用による菜園づく り、花壇整備、除雪支援等 (全 域)	R元~	・高齢者宅の玄関から市道等までの除雪 (アンケートによる) ・買物、病院までの交通手段 (一部高齢者) 【課題解決の取組・魅力づくり】除雪については、市民委員会、地区社協との連携に より、課題解決に向け、組織づくりを考慮中です。

神楽まちづくり推進プログラム見直しに係る参考資料

資料4

No	地域で認識している諸課題 (地域の課題)	課題解決の取組・魅力づくり	掲載 年度	当時の経過等 (参考)
7	【優先】安心して子育てができ、子どもが地域とつながりを持って安心・安全に暮らせるまちづくり (全域)	・子ども食堂の開設 (神楽本町・神楽宮前・高野)	H28~	(現在実施中)
8		【優先】子どもの学習支援 (スタディルーム) の開設 (全域)	H29~	(現在実施中)
9		・子ども食堂・学習支援・遊び場の開設 (神楽岡)	H29~	(現在実施中)
10		・子ども110番設置場所の見直し、設置世帯と子どもたちの交歓会 (全域)	H29~	幼い子どもへの虐待、肉親の殺害など悲惨な事故が後を絶たない。これらの事故を未然に防ぎ、抑止力の維持向上を図るため、子ども110番の設置場所の見直しを行い、「安心して子育てのできる街づくり」を目指したい。検証の結果、子どもたちと110番設置世帯との顔合わせ、交歓会などを催し、水飲みやトイレの借用などで子どもたちが気軽に訪問できるようにしたい。 【検討の視点】 子ども110番 (の家) 設置等の案件は、各町内会や市民委員会等の作業が主となることから、まち協の取組としてはなじまないのではないか。
11		・旭川医大との協力・連携 (全域)	R2~	(現在実施中)
12	・子どもの健康と命を守る関係機関の連携強化 (全域)	R2~	神楽地区の3つの小中学校には、学校運営協議会があり、学校と地域が一体感を持つことが大事。神楽岡小からは、授業の先生役に地域住民の協力を求められている。子どもを育てるのに地域を挙げて取り組むことが大事。組織横断的にいろんな知恵を絞り同じことに取り組むべき。(令和元年度第5回協議会議事録)	
13	・商店街の活動低迷、購買の流出 (全域)	・三浦綾子記念文学館など各施設との連携 (神楽本町)	R元~	H30年度協議結果で追加：中心市街地と橋が2本開通 (平成23年4月 氷点橋、平成25年11月 クリスタル橋) したことで利便性は良くなったが、その反面、商店の活動が低迷し、購買が流失している。 H30年度第2回協議会の発言、①観光客を含め駅から歩いてきてもらう取組が必要。施設が連携してPRしたり、大きな駐車場の開放等も検討し地域を活性化させたい。 ②橋ができて人もあまり来ないので、イベントを増やし子どもから高齢者まで集まれるようにする取組が必要という発言あり。
14		・大雪アリーナなどの無料駐車場の活用 (神楽本町)	R元~	
15		・旭川駅から歩いてきてもらうまちづくり (神楽本町)	R元~	

神楽まちづくり推進プログラム見直しに係る参考資料

資料4

No	地域で認識している諸課題 (地域の課題)	課題解決の取組・魅力づくり	掲載 年度	当時の経過等 (参考)
16	・商店街の活動低迷, 購買の 流出 (全域)	・互近助カード (買物割引, 災害 時の身元特定等) の発行 (全域)	H29~	地域住民の防災対策, 高齢化による認知症者対策, 地域事業者の販売増強対策として, 互近助カード (災害時の対応, カード所有者の特定, 買物割引等サービスを受けられることで町内会加入促進につなげる) の発行を提唱する。 【検討の視点】 H30年度第8回協議会で, 実施している昭島市へ調査したが, 町内会加入率の増加にはつながっていないこと (減少している), 割引など事業者の協力が必要など難しい面がある。市全域ではなく地域の狭い範囲で実施しても, 十分なメリットが得られないと思うという会議内容だった。 翌年度以降協議された経過はなく, 現状の物価高の中で商店等から割引の協力を得ることは難しく事業実施は難しいと考えるべきか。
17		・フリーマーケットや朝市の開催 (全域)	R元~	循環型社会に向けての地域づくりが必要。
18	・地域の魅力・賑わいづくり (全域)	・文化施設周辺の桜並木など緑豊 かな周遊ルートの整備 (全域)	H29~	北彩都の整備計画が進められているが, 神楽地区には文化施設や見本林があり, これらに連動した散策ルートを作るため, 桜並木やイチョウ並木を住民の手で整備し, 周遊ルートの基盤整備を推進したい。 【検討の視点】 並木道を整備するための費用や植樹の許可, その後の管理等の住民負担を考えると, まち協が今後も実施を検討する取組として残しておく必要があるか。
19		・まちを花で飾るなど花をテーマ にした取組 (全域)	H28~	※詳細不明
20		・南校川の底辺浄化及び雨水管の 定期浄化清掃 (高野)	H29~	【検討の視点】 神楽地区市民連協からも毎年市に同様の要望が出されており, 整合性を図る意味から, 要望は継続した方がよいと考えるべきか。
21	・地域防災力の向上と災害対 策 (全域)	・防災情報と地域案内を兼ねた立 て看板の設置 (全域)	H29~	当地域は神楽岡公園やプラタナス通りの菓子店に隣接し, また富良野や美瑛方面に向かう国道に面している。そのため, 地域住民のみならず旭川内外の方々も多く通行している。現在も防災避難所の看板は設置されているが, ①避難経路, ②川・山・危険箇所等, ③旭川駅・空港。病院等, ④地域の特徴や歴史等, ⑤簡単な地図やイラスト等を盛り込んだ看板を数か所設置する。
22		・洪水掲示板の設置 (全域)	H29~	電柱に取り付ける。想定浸水深 〇〇m・この場所は美瑛川が氾濫すると〇〇・地区センター・小学校・中学校・洪水避難場所浸水する可能性があります。
23		・要支援者の避難支援対策と体制 の充実 (全域)	H29~	美瑛川と国道237号との間の地域は河川氾濫時の水位が高く, 緊急避難が必要であり, 特に用意支援者への対策が必要。市民委員会, 町内会, 社会福祉協議会が協力して, 高齢者, 障害者, 認知症者等の災害時の避難支援対策体制の充実を図る必要がある。
24		・自主防災会の体制の見直しと充 実 (全域)	R2~	※詳細不明

神楽まちづくり推進プログラム見直しに係る参考資料

資料4

No	地域で認識している諸課題 (地域の課題)	課題解決の取組・魅力づくり	掲載 年度	当時の経過等 (参考)
25	・ 厳冬期の長期停電時の対策 (全域)	・ 避難所に発電機等の設置, 保存食等の備蓄 (全域)	H29~	【検討の視点】 毎年市に要望しているが, 納得できる回答ではないことから, 例年どおり継続要望とするか。民間事業者との協定を活用する等の一定の回答があることを踏まえ, 要望を取り止めるか。
26	【優先】ごみ減量化・循環型社会構築に向けた取組 (全域)	【優先】生ごみ堆肥化講習会, 譲り品受渡し会実施等 (全域)	H29~	(現在実施中)
27	・ ごみのないクリーンなまちづくり (全域)	・ 投げ捨てごみの注意喚起看板の設置 (全域)	H29~	市街地と神楽との間に2つの大きな橋が架かり, 交通量が3倍以上にもなったと言われる。同時に「投げ捨てゴミ」が増え, 決して「きれいな街」ではない。必要箇所への注意喚起の看板設置など対策が急務とされる。
28	・ キツネ・カラス対策 (全域)	・ ごみステーションの管理強化, 空き地草刈り奨励等 (全域)	H29~	ごみステーションの管理強化, 市民委員会環境部の地域住民への対策強化 (空地草刈) 奨励, 狐によるエキノコックス対策強化 (回覧配布等) 【検討の視点】 ごみステーションの管理等は, 各町内会の取組みが主であることから, まち協の取組としてはなじまないのではないか。
29	【共通課題】 ●人口減少・少子高齢化 ●町内会等の担い手不足 ●個人情報の把握	・ 関係機関が一丸となって取り組む仕組みづくり (全域)	R元~	※詳細不明
30	・ 地域における人間関係の希薄化 (全域)	・ 世代間を超えた交流事業の開催 (全域)	H29~	同じ町内会に住んでいる人さえ名前も顔も分からない人がいることもある。普段はこれでも良いのかもしれないが, 何か大きな火災・災害等があったとき, お互いに助け合うことを考えれば支障をきたす恐れがある。
31	・ 町内会加入率の低下 (全域)	・ 各地区で取り組んでいる世代間交流事業との連携 (全域)	R元~	世代間交流の事業については各地域ですでに取り組んでいるところも多いため, 新規事業にこだわらず, 地域とタイアップできるものがあれば連携する。また, それぞれ地域差があるため, 年度ごとに取り組む地域を決めていく方法も検討。
32		・ 「声かけ運動」の展開 (全域)	R元~	
33	【優先】まちづくり推進協議会の理解度・周知不足 (全域)	【優先】神楽まち協広報誌の発行 (全域)	R元~	(現在実施中)